

Independent

No.8

美瑛町すだちの教室通信

11月号

令和6年10月18日 発行



人生を豊かにする力

計算力や語学力、テストの点数など、数値化できる能力のことを「認知能力」といいます。一方、数値化することが難しい内面的なスキルのことを「非認知能力」といいます。後者は一例として「**目標を決めて取り組む**」「**意欲を見せる**」「**新しい発想をする**」「**周りの人と円滑なコミュニケーションをとる**」といった力のことで、「人生を豊かにする力」として近年、注目されています。

非認知能力の名前	具体的な能力
自己認識	やり抜く力、自分を信じる力、自己肯定感
意欲	学習志向性、やる気、集中力
忍耐力	ねばり強く頑張る力
セルフコントロール	自制心、理性、精神力
メタ認知	客観的思考力、判断力、行動力
社会的能力	リーダーシップ、協調性、思いやり
対応力	応用力、楽観性、失敗から学ぶ力
クリエイティビティ	創造力、工夫をする力

細分化すると左記の表のように分類されるようです。「非認知能力」という言葉にはなじみが無くても、「セルフコントロール」「メタ認知」など、一度は目にしたことがある言葉も少なくありません。

中学校を卒業後、より広く、大きく、多様な社会で生活することを想定すると、大切な力であると言えます。

「非認知能力」をアップさせるためのポイントとして

①遊びを通して

②好きなことを通して

③周囲との関わりを通して

の3つが挙げられます。特に「**③周囲との関わり**」は、**学校生活を送るうえで欠かすことができません。**

自分が作ったものをクラスメートと交流・共有したり、他の人の良いアイデアを参考にしてみたり、周りと意見が合わなかったときは納得解を得るために交渉・調整を試みたり、何か失敗をしてしまったときは、それを取り返す工夫をしたり…。学校生活は「他者との関わり」で学べるのが実に多いのです。

もちろん、「周囲と関わる」こと自体を苦手とする人もたくさんいます。その「苦手さの度合い」についても向き合ってみる（例：関わってみた結果の苦手なのか、苦手だから関わっていないのか 等）と、より自分のことが理解でき、対処の方法も具体的に増えてくるのかもしれないね。

すだちの教室では、「こんな時、どうする?」「どんな方法なら、他の人に伝わる?」など、具体的な場面を想定しながらコミュニケーションのあり方を学び、「より円滑な人との関わり方」や「人生を豊かにする力や方法」を一緒に考えていきます。

参考：非認知能力とは？幼児期から学童期に育てたい「人生を豊かにする力」

(<https://www.embot.jp/news/category/column>)

〈すだちの教室 11月の通級日〉

